



教員対象 ー生命科学への誘いー

藻類におけるストレス応答-油脂の蓄積

ストレス応答は、生命を維持する上で必須の生理過程です。例えば、光合成を行う藻類は、栄養欠乏ストレス下、エネルギー源や炭素源となる油脂を蓄積します。これにより藻類は、細胞内のエネルギーレベルを適度に維持することで、有毒な活性酸素の発生を抑制し、同時に、将来、そのストレスから解放された際、蓄積した油脂の異化を通して、生育を再開します。

一方、藻類の油脂を原料とするバイオ燃料は、光合成により再生可能であり、またカーボンニュートラルでもあるため、近年、注目されています。本実習では、油脂蓄積能に優れた、緑藻クロレアを用いて、その細胞内での蓄積の様子を蛍光顕微鏡観察し、また細胞から油脂を単離します。本実習を通して、生物のストレス応答、その産業利用に関する知識をより深めていただき、授業に役立てていただければと思います。

- 日時：2021年8月22日（日）
10時～16時
- 場所：東京薬科大学生命科学部
東京都八王子市堀之内1432-1
研究4号館・実習室2
- 申込方法：東京薬科大学HPより申し込んでください
<https://www.toyaku.ac.jp/lifescience/visitor/teacher-lifescience/index.html>



締切：2021年7月26日(月)

先着順 12名

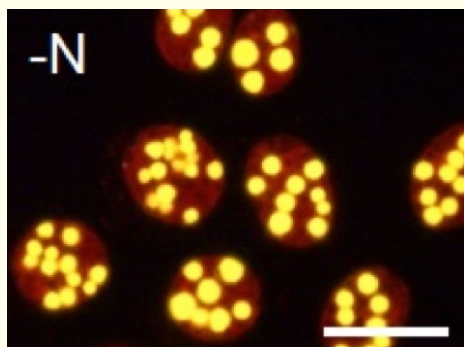
定員に達した場合はHPでお知らせします

問合せ先：

東京薬科大学 生命科学事務課

Tel: 042-676-8763

Email: seijimu@toyaku.ac.jp



窒素欠乏ストレス下の藻類における油脂（黄色の顆粒）の蓄積



藻類油脂を原料とするバイオ燃料の燃焼

*新型コロナウイルスの感染状況により中止する場合があります。

開催の詳細はホームページからご確認ください。